全国浴場新聞

発行所
全国公衆浴場業環境衛生同業組合連合会
東京都千代田区東神田1－10－2
TEL 03(5687)2635
購読料　1部100円

規制緩和対応策を協議

全浴連・理事会を開催



全浴連（水島正一理事長）の理事会が、一月二十六日、全浴連会館で開かれた。議案や理事会開催、規制緩和にともなう対応策、および福祉入浴サービス事業に関しての意見交換などが行われた。

水島理事長は「規制緩和は経営の危機を招く恐れがあり、この対応には関心を持たなければならない。厚生省などと各関係官庁は規制緩和について懇談会（越智座長）との懇談において、平成六年度予算の概算要求の段階で、厚生省の対応などの今後の動向を説明。

「福祉に関する規制は衛生面の問題と、経営の圧迫にならないかの問題をどのように考えるか」との質問に対し、水島理事長は「法的措置は経営上大打撃を受けるが、十分に話し合いをしていく」と答えた。

また、「利用者が減少している現状を考えると、公共性の問題もとりざたされてきている。入浴施設においては法的措置の除外といった事態も招く恐れがあることから、意見が活発に交わされた。

全浴連の会議日程

全浴連の今後の会議などの日程が次のように設定されている。

▽共済事業委員会＝予算委員会＝二月十五日。全浴連会議＝理事会＝二月二十四日、同。

▽理事会＝四月一、二日、同。

▽通常総会＝五月二十日、鹿児島県鹿児島市。

▽業者大会＝五月二十一日、同。

▽次世代委員会＝四月二十一日、同。

▽代議員会議＝三月十一日、同。

加入で安心、利用で健康
みんなで育てる生命共済
全国公衆浴場業環境衛生同業組合連合会

環衛業の明日の課題

イベント実施の効果と手段

何日は割引きデーなどと宣伝していくというのもありますが、地域とか商店街など個人を超えたレベルで実施する行事の類は、中・長期的視野に立って実施されるべきものである。業種に対する消費者の理解や意識を養うためにも、信頼感を養成するような行事は、一時的な人の目を引くというだけでなく、目先の売り増を考えるとどうしても○○祭り○△△日」的なものになる。こうした催しには、成功しきれないものも、あまりうまくいっていないものもあるが、行事を通じて伝播させていくということが本来の目的である。

しかし、「△△祭り○△△日」的なものになると、長期的な視野に立った効果はなかなか期待できない。また効果のある事業はなにもできなくなってしまうであろう。

業界には、この環衛業でも、どうしても○○祭り○△△日」的なものになる。こうした催しには、成功しきれないものも、あまりうまくいっていないものもあるが、行事を通じて伝播させていくということが本来の目的である。

しかし、「△△祭り○△△日」的なものになると、長期的な視野に立った効果はなかなか期待できない。また効果のある事業はなにもできなくなってしまうであろう。

業界には、この環衛業でも、目先の売り増を考えると、どうしても○○祭り○△△日」的なものになる。

原則論からいうと、地域とか商店街など個人を超えたレベルで実施する行事の類は、中・長期的視野に立って実施されるべきものである。業種に対する消費者の理解や意識を養うためにも、信頼感を養成するような行事は、一時的な人の目を引くというだけでなく

福祉入浴事業調査研究報告書

ふれあいせんとう⑦

Ⅲ 福祉浴場実現に向けて（総括と提言）

平均寿命の伸長と出生率の低下により、我が国は、人口の高齢化が急速に進行しており、二一世紀初頭には、四人に一人が六五歳以上という、未だどの国も経験したことがない超高齢化社会の到来が予想されている。

こうした中で、国としては、平成元年に策定された「高齢者保健福祉推進十年戦略（ゴールドプラン）」に基づき、ホームヘルパーの増員、デイサービスセンターの整備の推進などの施策を実施している。

このように、急速な高齢化社会に対応していくためには、様々なサービスと人材を総合的・短期間に確保していく必要があるが、それには、様々な困難が予想される。そこで、高齢化社会に対応し、新たな社会的資源の整備とともに、既存の施設、住民などのマンパワーの活用を図り、これらを有機的に結合させながら、豊富な福祉サービスメニューを提供していく必要がある。既存の施設、住民などの福祉への参加は、高齢者、障害者が同じ場を共有し、交流する機会を作り出す可能性もあり、ノーマライゼーション理念の実現ともなりうる。

ところで、全国社会福祉協議会の「全国デイサービスセンター整備実態調査（平成二年二月調査）」によれば、通所事業を、利用人員の一順に並べると、①食事（一日あたり一一、六人）②給浴（一日あたり一二、五人）となっていることからも、入浴サービスの需要は高いことがわかる。

このことからも、今後の高齢化の進展により、入浴サービスの需要はさらに高まると予想されることから、公衆浴場の施設を利用した入浴サービスの提供についても十分に検討される必要がある。

なお、公衆浴場において福祉入浴サービスを実施することについては、昨年度からのモデル事業などにより、小動者など、必要なマンパワーが確保されれば十分可能であることがわかった。

公衆浴場を利用した福祉的入浴サービスについては、平成三年度から神奈川県川崎市において実施されている「デイセンター入浴事業」、平成四年度から岐阜県高山市において実施されている「ふれあい入浴サービス」など、入浴設備のないデイサービスセンターと福祉入浴事業」及び「いきいき入浴事業」があるが、いずれの事業も地方公共団体が独自の判断と財政負担において実施されている。

地方単独事業のメリットとしては、地方公共団体が、創意と工夫により独自に事業を実施できることから、全国レベルの実施に至らないまでも、全国的な取組みであっても比較的柔軟に対応でき、また、それぞれの地域の事情を反映して地域性に富んだ様々な対応が可能であるという点にある。

福祉入浴事業の実施方法としては、独立した地方単独事業として実施する方法があるが、この他、既存の老人福祉施策と連携を図りながら、あるいは、デイサービス事業を実施するなどの施策を実施する方法も考えられる。この場合、具体的にどのような形でどのような事業と連携を図っていくべきかについては、さらに検討する必要があるが、以下に述べるような実施方法についても検討される必要がある。

なお、各種民間団体が行う高齢者福祉施設の在宅福祉の向上に資する事業を支援するため、地方公共団体において、基金（福祉振興基金）が設置されているが、「設備改善などの費用について、この基金を活用することも考えられるのではないか。

1老人福祉施策との連携について

①デイサービスセンターとの連携方策について

先の老人福祉法などの改正により、市町村及び都道府県は、地域老人保健福祉施策を計画的に実施するため、老人保健福祉計画を策定するものとされており、デイサービスセンターについては、国から、平成一〇年度までに概ね中学校区に一か所程度整備するとの整備目標が示されている。

しかし、都市部においては土地取得の問題もあり、新規にデイサービスセンターを整備するには多大な費用を要し、目標年度までに必要な施設を確保するためには、保育所などの既存施設の活用が必要となってこよう。

市町村においては、平成三年度から神奈川県川崎市において実施されている「デイセンター入浴事業」、平成四年度から岐阜県高山市において実施されている「ふれあい入浴サービス」など、入浴設備のないデイサービスセンターを整備するとともに、福祉入浴事業を図り、介助負担の軽減を図るなど、入浴設備の整備費が安くなるというメリットがある。

②　訪問入浴サービスとの連携方策について

市町村は、長期にわたり入浴をすることが困難な高齢者などに対して、訪問して入浴サービスを提供する「訪問入浴サービス」を実施するという方法が考えられる。

このように、既存の施設を積極的に利用することにより、新たな施設整備を抑制することができる。

「在宅入浴サービスガイドライン」の内容を満たす民間事業者や町村の委託を受けた事業施設などがこれに該当する。

この事業は、民間の入浴業者が組立式の浴槽を対象者の自宅に持ち込んで又は車両内部に浴槽を備えた移動入浴車両において入浴サービスを行っている。この入浴業者と福祉浴場との間で連携を図り、対象者の自宅へ訪問するかわりに、入浴業者が対象者を福祉浴場まで移送して、福祉浴場の設備を使って入浴サービスを行うことが考えられる。

この方法であれば、一度に多数を入浴させられるなどの、効率的な入浴サービスが実施できる上、福祉浴場における入浴サービスの実施にあわせて、自宅の入浴介助が必要な方などの送迎サービスを行うことが考えられる。

現在、市町村が行っている訪問入浴サービスについては、対象者一人一回つき一五千円を国庫補助の基準としているが、同じ料金で二人で六軒の家庭を巡回すると仮定すれば、入浴業者は一日に九万円の収入を得られることとなる。

福祉浴場は公衆浴場業者が行う訪問入浴サービスとの連携と継の同伴化を図る方法としても、

ニューよくさん



広場



うっかりできない相続問題

岡嶋武夫

東田サン一家は代々農家となり、相続が平等になったことは前回お話しした。

ご当主は妻と子供が二人いた。長男が一郎で嫁をもらい農業を継いで一家以下の子供が生まれ、長男一郎に小さな男の子が二人できたときに、戦争のために招集にかかり戦地にかり出されたが、戦死してしまった。

農家が農地だったので、昔の習慣に従って、二男の二郎が長男一郎の嫁と結婚して家業を引継いだのである。

相続については、当時子供が二人いたので、何も問題がなく、一郎も二郎も世間並みに同じ家に住んでいたので、真の父親として育ったのである。

その後何年かして、二郎の父親が死亡した。この時も旧民法時代であったので、相続は家督相続となり長男が戦後になって、民法が改正となり、相続が平等になった。

私の身近な大ヘんな面倒な相続問題となった事例があるので、このお話をしようと思う。

仮りにこの一家を東田サンとしよう。

東田サン一家は代々農業をやっていた。

私の身近な最近大ヘんな面倒な相続問題となった事例があるので、このお話をしようと思う。

仮りにこの一家を東田サンとしよう。

東田サン一家は代々農業をやっていた。

ご当主は妻と子供が二人いた。長男が一郎で嫁をもらい農業を継いで一家以下の子供が生まれ、長男一郎に小さな男の子が二人できたときに、戦争のために招集にかかり戦地にかり出されたが、戦死してしまった。

農家が農地だったので、昔の習慣に従って、二男の二郎が長男一郎の嫁と結婚して家業を引継いだのである。

相続については、当時子供が二人いたので、何も問題がなく、一郎も二郎も世間並みに同じ家に住んでいたので、真の父親として育ったのである。

その後何年かして、二郎の父親が死亡した。この時も旧民法時代であったので、相続は家督相続となり長男が戦後になって、民法が改正となり、相続が平等になった。

即ち、死亡した父親にとっては男子の孫ということである。

父親の妻、二男その他の子供は成人していても相続人とはされなかったのである。

兄嫁と結婚した二郎は子供がいなかった。親の相続については自分の子供ではないが、現在親子として暮らしている子供という意識が強く、真の親子として生活し、それぞれ成人していったのであった。

その間、二郎も所得があったので、当然預金、若干の不動産を持つことになった。

又時がたち、二郎は昨年八十四歳で死亡した。

葬儀、法要がすんで、相続の相談になって驚いてしまった。

二人の子供は養子縁組していなかったために、財産がまた父の所有であったし、二郎に子供が二人いたので、二郎に子供が二人いたので、二郎の子供が二人いたので、二郎の子供が二人いたので、二郎の

浴場余話

大原十六

「風呂について」

公衆浴場とかめいう官製をまつったが、戦前は風呂屋、湯屋と呼ばれていた。喜田川守貞著の「近世風俗志」には、「京師（京都）、俗に風呂屋と云、「江戸（江戸）、今俗に湯屋と云、銭て湯へ行くを湯屋と云、江戸は湯屋と呼んでいたのである。今は東京も湯屋という人は少なく、風呂屋が般的に用いられている。新聞やテレビが取り上げるときは、おろかね、銭湯が用いられる。風呂屋と湯屋と混同して呼び、湯に浴することを風呂に入るといい、湯を沸すことを「たてる」。

風呂屋の語源は室（ムロ）の転訛だというが、「古語辞典」によると、室（ムロ）は「しの家の裏まった部屋になどには、室（ムロ）はかある。風呂は蒸気をこて蒸した室に入り、湯屋は湯を湯槽に満し、その槽内に身体を入れて湯につかるのである。

今回はその「風呂」をとりあげてみようと、まず語源であるが、柳田国男の「風呂の起原」に述べるところをすこし長いが引用してある。

風呂と称する入浴法はもと仏家の作法に始まったらしい。我邦に固有の浴法は単に湯川に浸って身を洗ひ又は今日の行水のやうに快晒にして且つ単簡のものであったのを、僧徒永久の垢をすり落し且つ心気を養ふと称して、立願の浴室の中で湯気を出す事を案じることと追の如く、それが今日の如く一般民家にも流行るまいか。（……略…）フロは多分室（ムロ）と同じ語で、寒くは岩窟のことであったろう。寺院の保護の下に生息して居た一種の人民が、石室又は土室を築くどころで、之を利用して、石風呂と名づけ、閉じた温室をも「ムロ」と呼ぶあり、駿や納豆を造る密閉した温室をも「ムロ」と呼ぶあり、蚕の上蔟所をムロと呼ぶ地方もあるが、柳田国男の「蚕と蚕具の民俗」巻十二「蚕屋の事」に、「蚕が眠をたべるかわせ、食けた刑部房がその為にと筵とした刑部房蚕の語源については、「室」説に賛成である。

中世の和歌、風流御事、「御伽草子」の「物語」に「風呂」の字が見られる。

蒸風呂の原型である「石風呂」は、窟窟内の岩石の上に立かこまれる藤原実遇に「風呂」の火を燃やし、岩を熱してそれを立ため、その中で蒸される。眼病の治療法が、目をしばって「蒸風呂」なるものに入ることに、また新たに火を燃さないつもりで、間違えて、戸迷さなければならず、手数がかった。

燃料の節約にもなったが、多数の人が入れかわり、立ちかわり入ると引戸の開閉が多く、中の蒸気が外へ逃げ出す欠点もあり、これに「懲った」のが「柘榴風呂」である。三方を板で囲い、前方の入口を引違戸に替えて上開放的にしたのが「柘榴風呂」である。三方を板で囲い、前髄窓や釜のしずくを能率よく水槽や像のある戦を一度蒸んで三、四人のところから這い入るようにして出入した。一二歩あるいは湯槽に達する。浅い湯槽に膝くらいまでの湯があり、そこで入ることができる。蒸気は下部で冷やして湯気が立ちこめ、蒸風呂と蒸湯との中間のようなものである。

柘榴風呂は初期のものほど前面の板が低く、だれて下の部前面の板が少なく、年代と共に前板が増せられ上の開口部が大きくなった。このような蒸湯は



戸棚風呂（大圖屏風絵）

風呂について

さけれはならず、手数がかった。

蒸気が逃げるように、入口を狭くし、入口の上部に煙出しの窓を設けた。

戸棚風呂は、湯槽の後方に、燃料を入れる焚口を設けたもので、蒸気が逃げないように、入口の戸を閉めて、蒸気を逃がさないようにした